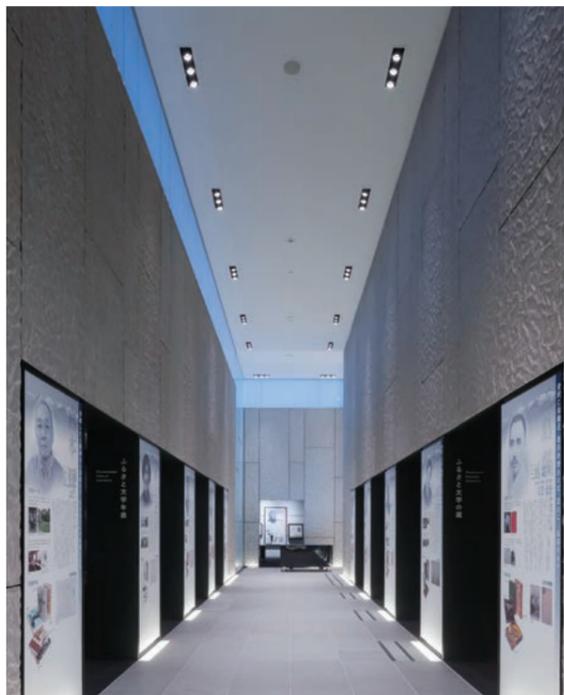




北側全景。「藏」の間を「土間」がつなぐ。



「土間」の展示空間。導入部展示スペース。



メインアプローチ。左側の万葉の庭の奥は旧知事公邸。

BCS賞
2016年 第57回
BCS賞受賞作品紹介

高志の国文学館

選評

高志の国文学館は、富山市中心部の松川沿いに位置する旧県知事公館を改修し、新たに展示棟を増築、八、〇〇〇平方メートルを越す敷地全体のランドスケープの創出と共に、万葉の時代から続く越中文学に関する文学館として、純粋な文学のみならず、絵本、絵画、漫画等も楽しめる市民に開かれた都市施設として再生したものである。

この施設の実現に向け、設計者の一貫した姿勢は、文学館や博物館に求められるきわめて重要な作品保護にふさわしい温熱環境性能を確保しながら、市民開放が行いやすい建築とすべく、平面計画・ゾーニング計画を明解なコンセプトのもとに構成している点にある。必要な機能やボリュームを旧知事公邸と共に周辺の住宅地にあわせて配置し、景観と調和するスケール感を生み出している点も見事である。

具体的に述べると、旧知事公邸を「屋敷」、増築棟をそれに付随する「藏」と「土間」という日本の

な空間構成として位置付け、さまざまな用途をバランスよく納めている。「屋敷」には施設全体の管理部門、研修室、レストラン、茶室といった地域サービス機能を設け、「藏」部分は、主たる用途である常設展示室、企画展示室、収蔵庫、学芸員室等の博物館機能となっている。「藏」を囲うように計画されている街路のような「土間」空間は、自然の光を取り入れたライブラリー、ラウンジ、導入展示部分など、多くの人がびとが気軽に利用できる魅力的なスペースになっている。特に開放的なライブラリースペースは、日本最大級の複層ガラスを介して、新たに整備した「万葉の庭」と名付けられた庭園を取り込み、地味で閉鎖的になりがちな文学館に、空間の拡がりを楽しみを与えている。

構造は、屋外・屋内とも耐候性のある富山の地域産業のひとつであるアルミ・鋳物で覆われた「藏」を、強度と剛性及び遮音性に優れた壁式鉄筋コンクリート構造でつくり、耐震コアとしてバランスよく離散的に配置し、地震力を受け



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング 大手町タワー／大手町の森 京都国立博物館 平成知新館 グランフロント大阪
高志の国文学館 ザ・リッツ・カールトン京都 住田町役場 東京スクエアガーデン 流山市立おおたかの森小・中学校、おおたかの森センター、こども図書館
日清食品グループ the WAVE 穂の国とよはし芸術劇場 プラット 八幡厚生病院本館 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟 Ribbon Chapel 龍谷大学 和顔館
[特別賞] 札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング
日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社

建築主

誰もが気軽に「ふるさと文学」に
より 親しみ学べる高志の国文学館

高志の国文学館は、越中国守を務めた万葉歌人・大伴家持の時代から近・現代までの小説、詩歌のほか、映画、漫画、アニメなど、富山県ゆかりの作品の魅力を幅広く紹介しています。また、旧知事公館の庭園を眺めながらくつろげるライブラリーコーナーや、小さなお子さんと一緒に絵本を読むことができる親子スペースなど、無料でご利用いただける場所も広く設けています。子供から大人まで気軽に文学に親しみ

学べる場として多くの方々にご利用いただき、平成24年7月の開館から約4年で入館者が50万人に達しました。

県の主要産業であるアルミをはじめ県産材を使用した建物は、建築デザインの面でも高く評価されています。新幹線駅から徒歩圏内に位置していますので、ご旅行や出張の際にお立ち寄りいただき、文学館の魅力に触れていただければと思います。



富山県知事
石井隆一
Takakazu Ishii

設計者

より



株式会社シーラカンス
アンドアソシエイツ
代表取締役
伊藤恭行
Yasuyuki Ito

「蔵」と「土間」による開放的な文学館

万葉の時代からの長い歴史を持つ越中文学に関する文学館です。旧知事公館を改修し、新たに展示棟を増築、既存庭園の改修と周辺ランドスケープの整備をすることで再生する計画です。展示棟は「蔵」である閉鎖的な空間と「土間」である開放的な空間で構成されています。「蔵」の壁は内外共にアルミの大判鋳物パネルで覆っています。これらに越中万葉で詠われた数々の植物の葉を鋳込みました。また、「蔵」と「蔵」

に囲まれた「土間」は来館者が自由に歩き廻るスペースです。「蔵」の壁を落ちる光や、3m×7mの大きなペアガラス3枚による大開口から見える庭園の風景により、様々な光の状態を感じることのできる場です。

構造は、「蔵」の壁式コンクリートが「土間」屋根の鉄骨トラスを支えるシンプルな構成により、柱のない「土間」空間および片持ち13mの庇を実現させました。

施工者

より 関係者全員の知恵と努力で造りあげた
富山県のシンボリック建築物

高志の国文学館の施工にあたり、設計の基本コンセプトである、7つの蔵と土間の空間をどのような工程でつくり上げるかが大きな課題でした。

特に玄関へのアプローチ空間は、国内での施工例がない規模の13mの鉄骨片持ち庇と、3m×7mの大型ペアガラスで構成された建物を象徴する重要な部分のため、設計関係者の皆さんと施工関係者が連日協議、打ち合わせを重ね

「自分達が最初の施工例になろう」を合言葉に知恵を出し合い工事を進めました。

工事の着手前に懸念された取付時のガラス割れや屋根のタワミによるガラスへの損傷もなく、無事に完成することができました。

関係者全員の知恵と努力を得て、高志の国文学館という富山県のシンボリック建築物に携われたことに荣誉感を感じるとともに、BCS賞を受賞できたことを大変喜ばしく思っています。



日本海建興株式会社
建築部長(現職)
作業所長(当時)
野上俊光
Toshimitsu Nogami



上/「蔵」の展示空間
右下/「土間」の空間。ラウンジからライブラリーと導入展示空間を見る。
左下/ライブラリー。大判ペアガラスによる庭園の眺望。



地域産業のアルミ鋳物製パネル。
外装・内装仕上げに用いられる。

持たせている。「土間」部分は鉄骨
フイーレンデールトラス梁による
無柱空間で、設備ルートも十分確
保されている。構造計画は決して
目新しいものではなく、一般的に
採用されるであろう構造方式であ
るが、建築の機能、空間の持つ魅
力を引き出すことに大きく寄与し
ている。計画全体を通じ、意匠・
構造・設備の設計者のチームとし
て、バランスの取れた専門的かつ
総合的な解答は特筆に値する。
文学館を、限られた人に限らず
多くの人に開放する施設として企
画し、運営を続ける建築主、とし
てその意図を設計者・施工者が
各々の土俵でさらに建築として昇
華させた、質の高い作品である。

【選考委員】
五十嵐太郎・宮崎浩・河野晴彦

計画概要

建築主：富山県

設計者：(株)シーラカンスアンドアソシエイツ

施工者：日本海建興(株)
三由建設(株)
(株)ミツホ建設

所在地：富山県富山市舟橋南町2-22
竣工日：平成24年7月3日

敷地面積：8,466㎡
建築面積：2,738㎡
延床面積：3,070㎡

階数：地上2階、地下1階
構造：鉄筋コンクリート造
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)